

発表タイトル

# 靴の調査

杉谷 佳希 21711202ys@tama.ac.jp

秋山 京吾 21711012ka@tama.ac.jp

真坂 省吾 21711333sm@tama.ac.jp

## 1. 目的

靴のイメージを SD 法により測定し因子分析を行う

## 2. 方法

10 個の対象を用意し、大学生 31 人に 18 の形容詞対で評価してもらった。

## 3. 結果

	第1因子	第2因子	第3因子
写真1	-0.70	0.13	0.03
写真2	-0.41	-0.69	-0.26
写真3	-0.17	0.05	0.57
写真4	0.11	-0.76	0.01
写真5	-0.30	-0.15	0.13
写真6	-0.40	-0.68	-0.44
写真7	0.22	0.11	0.71
写真8	-0.29	-0.14	0.64
写真9	-0.99	0.06	0.05
写真10	0.18	-0.62	0.16

(イメージ)

第一因子：動きやすい

第二因子：ラフ

第三因子：イメージ(左から3つ):光沢



イメージ(4つ目):光沢無し

## 4. 考察

因子分析の結果3つの因子が抽出され、動きやすい、ラフ、光沢系と命名した。最初の予想ではサンダル系、ハイカット系、スニーカー系、ブーツ系、革靴系の5つに分かれると予想していたが、調査をした結果種類ごとにまとまるのではなく実用性や見た目のイメージなどでまとまりあって予想と違う結果になった